

「第11回徳山ダム環境保全対策委員会」審議内容メモ

日時：平成 17年 2月 28日（月） 13:30～16:00

場所：名古屋逓信会館 3階 桐の間

出席者：（委員）佐藤委員長、阿部委員、駒田委員、前田委員、松井委員、
水野委員、中村委員、西條委員（abc順）
（事務局）32名

【審議内容等】

1. 前回委員会の審議内容等の確認

第10回委員会（平成 16年 9月22日）の審議内容を確認した。

2. 事業の進捗状況及び今後の工事計画について

平成 17年1月31日までの工事進捗状況の説明がなされた。

今後の工事計画についての説明がなされた。

3. プロジェクトの実施状況について

各プロジェクトの活動状況と今後の活動予定について、以下のような報告がなされ、内容を審議した。

陸域環境：生育・生息環境 P T

- 1) ダムサイト下流の調査用横坑を平成17年度に安全に配慮した上でコウモリの越冬場として利用できるよう整備することについて報告がなされた。
- 2) 湛水区域周辺でのヤマネの生息状況を把握するため、平成16年度に引き続き、平成17年度に湛水区域内の4地区に巣箱を設置することについて報告がなされた。
- 3) オオムラサキの保全対策としてダム下流の個体群との連続性を勘案し、エゾエノキの移植及び挿し木を湛水区域外に実施することの報告がなされた。
- 4) 湿性地の整備計画及び湿性地利用状況調査について報告がなされた。

陸域環境：植物 P T

- 1) 植物の重要な種の移植計画について報告がなされた。
- 2) ダムサイト法面、原石山及びコア山の改変跡地における植生回復の実施状況、今後の対応について報告がなされた。
- 3) 湛水前後の環境変化を把握するための、植生調査、土壌動物調査、物理環境測定の結果について報告がなされた。また、水位変動による植生変化をより詳細に把握するための林床植生調査および貯水池上流端の河岸植生調査の計画について報告がなされた。

河川環境 P T

- 1) 環境保全河川内におけるアジメドジョウの生息分布調査結果の報告がなされた。
- 2) お魚引越し作戦の実施状況について報告がなされた。
- 3) アジメドジョウ及びアカザの産卵場を確保する等の今後の方針について報告がなされた。
- 4) 魚類生息状況調査、サケ科魚類調査、底生魚類孤立個体群調査等のモニ

タリング調査計画について報告がなされた。

- 5) 今後、ダム湛水後のダム湖内における魚類相のあり方について、ダム湖の生態系全体を念頭に置き、在来魚種を主体とすること、外来魚の移入の防止等に関し、必要に応じて関係機関と連携し、継続的に監視し、必要な措置を講じることを提言した。

ワシタカPT

- 1) 平成17年度モニタリング調査計画の説明がなされた。
- 2) 平成16～17年繁殖シーズンにおいて繁殖が確認されたクマタカつがいのCCDカメラによる解析結果について報告がなされた。
- 3) CCDカメラによる記録は、湛水前後での餌動物の変化を比較する上で重要であることを提言した。

その他

- 1) 環境学習会の開催状況について報告がなされた。
- 2) 例年参加している揖斐自然環境レンジャー主催の「実のなる木を植えよう大作戦」については度重なる台風等で中止されたことが報告された。
- 3) 環境に配慮した試験湛水の方法等について、検討を行ってみることを提言した。

4. 今後の予定について

今後の予定として、以下の提案がなされ、内容を審議した。

- 1) 「ダム等の管理に係るフォローアップ制度」に基づき、平成17年6月を目途に「徳山ダムモニタリング部会」を設立する。
- 2) 環境保全対策委員会で審議している「徳山ダムモニタリング計画」については、現在までの環境保全対策及びモニタリング調査の結果を踏まえて改訂し、委員会の成果として引き継ぐ。
- 3) プロジェクトチームについては、今後も存続し、徳山ダムの環境保全対策、モニタリング調査について引き続き必要な指導・助言を行う。
- 4) 湛水前後の環境への影響を把握する上で、モニタリング調査は重要である。モニタリング調査についてはフォローアップ制度の中でその充実を図っていくことを提言した。
- 5) 事業により直接改変等の影響を受けた自然環境については、完全に回復させることは事実上、困難であるとの認識に立ち、実行可能な範囲内で保全策等を進めていくことを提言した。
- 6) これまで徳山ダムにおいて検討・実施された環境調査結果や保全策のとりまとめ及びその公開方法等について、検討することを提言した。

5. 審議内容の確認

本日（平成17年2月28日）の審議結果を本メモに基づいて確認した。

以 上